

平和憲法・9条をまもる 岩手の会 ニュース No.5 2

2009.12.4

発行：平和憲法・9条をまもる

岩手の会 事務局会議

連絡先 県生協連・県消団連

TEL019 - 684 - 2225

FAX019 - 684 - 2227

とんでもない「普天間基地」移設問題 沖縄はいつになったら基地のない平和な島になるのか!?

日米とも政権交代が行われましたが、憲法9条の精神が生かされ、戦争のない平和な世界の未来像はどちらからも聞かれません。唯一、アメリカのオバマ大統領が「核兵器のない世界を目指す」と演説し、あつという間に世界の常識になったのは、人類の発展にとっても喜ばしく、戦後一貫して「核兵器廃絶」を訴え続けてきた被爆者や平和運動を積み重ねてきた我々には朗報でした。

この普天間基地移転は、それまでの50年間で考えられなかった基地返還に“風穴”をあけ、1996年に日米政府は「普天間飛行場」を5～7年以内に全面返還すると発表。しかし、基地の移転先が北部の辺野古に決定してからは、地元は分断されました。新基地受け入れ反対の住民投票と市長選挙が相反し、市長の妥協の中基地移転容認ですすんできた名護市が、この1月にはまた市長選を迎え、その結果が目撃されます。しかし、今年8月の総選挙で県外移転を訴えた政党・候補が全員当選し、辺野古移転はなくなると期待した沖縄県民にとって、アメリカの圧力の中で、また辺野古移転が浮上してきたことは許しがたいことです。普天間基地移転先の決着は「日米関係の試金石」とも言われ、住民無視の日米交渉は沖縄県民を苛立たせています。



《怒りの爆発》 沖縄県民は11月8日、「辺野古への新基地建設と県内移設に反対する県民大会」を実行委員会主催で開催し、21,000人もが参加しました。主催者を代表して挨拶した普天間基地がある伊波洋一宜野湾市長は「戦後64年も続く米軍基地の負担、苦しみと悲しみに終止符を打つ英断を鳩山首相に求める」と強調しました。

アメリカのアジア戦略の拠点としての沖縄利用は、もちろん昭和20年の占領時から始まり、その後普天間基地の返還を最大の武器に日本に恩を売る一方で、アジア・世界戦略の拠点としての固定化

を狙っていたのです。そして今回の基地移転については、「米軍は最新鋭基地がほしかったから辺野古移設」にこだわったとの証言まで飛び出しています。

沖縄はいつになったら、基地のない平和な島になるのでしょうか。沖縄県民は「米軍拡大に日本が利用される時は、必ず沖縄が踏み台にされる」と怒っています。再編は、アメリカが世界に戦争をしかける時の“殴りこみ部隊”の強化と、戦闘機やヘリコプター等の戦争資材の強化に他ならない事が次第に明かになり、その費用を日本に負担させようとする目論見なのです。

今回、「平和憲法・9条をまもる岩手の会」では、沖縄のそんな状況を体感しようと3回目の「沖縄平和の旅」《2月10日(水)～13日

(土)、定員30名》を企画しました。この時期、辺野古で座り込み反対運動をしている皆さんとも交流、沖縄の爆音と米軍基地の広さに不条理を感じ、沖縄の苦しみを肌で感じ、これからの平和運動のエネルギーにしたいと思います。皆さんの参加をお待ちします！ 問い合わせは 019-684-2225まで



宜野湾市の真ん中に居座る米軍基地

(平和憲法・9条をまもる岩手の会事務局 伊藤慶子)

「世界を見る目を養ってほしい・・・」ビキニ水爆実験被爆の体験を聞く会

1954年3月、アメリカが太平洋マーシャル諸島ビキニ環礁で行った水爆実験により被爆した「第五福竜丸」乗組員の一人、大石又七さんが11月14、15日に盛岡・北上・宮古で講演しました。

大石さんは、被爆による肉体的苦痛や苦しみ、差別や偏見からの苦しみ、二重の苦しみに耐えこれまで過ごしてきました。日本・アメリカ両政府が、わずか9ヶ月間で政治決着し握り潰してしまったため、ビキニ水爆実験があったことを世界中の多くの人は知りません。今騒がれている「核密約」も、これまで日本政府は隠してきましたが、これらの国の姿勢についても強く抗議していました。



大石さんは日本全国で平和の大切さを伝え、子どもたちには最後に必ず自分の思いとして「戦争だけはどんなことがあっても起こしてはならない。日本の自衛隊は人殺しをする軍隊になるのではなく、平和憲法に従って今すぐにでも人を助ける災害救助隊に名前も行動も変えるべきだ」と言っています。それが、世界のどの国からも信頼され、愛される日本になる道だと。そして、世界を正面から見るのではなく、常に横からも

後ろからも、斜めからも見る目を養ってほしいとお願いしているそうです。(報告：事務局)

国際色豊かに開催 一関九条の会 憲法前文暗唱大会&平和作品展示会

憲法施行記念日の11月3日(祝)、一関武道館で開催しました。「暗唱大会」では千田功平弁護士による憲法前文の解説に続き、中国語、英語の憲法前文と英語の9条部分が紹介され、流暢な外国語の余韻も加わり、国際色豊かな大会となりました。

そして40名余が見守る中、豊村富司さん、齊藤三郎さん、翁勝彦さんの3名が前文暗唱に挑戦しました。甲乙つけがたい出来でしたが、以前から暗唱に取り組んでいた豊村富司さんが最優秀賞に輝き、9条カレンダーと商品券の副賞を手に入れました。来年はさらなる参加の広がりが期待できます。

同時に開催された平和作品展示会には、絵画・書・写真・陶芸・短歌・川柳などに市民30名が出品、作品総数は164点を数えました。(「一関九条の会ニュース」より)



お知らせ

平和憲法・9条をまもる岩手の会

発足5周年記念「学習会・活動交流会」(仮)

この12月で発足から5周年を迎えます。来年5月の国民投票法施行を前に、新政権下での憲法問題について学習し、また県内に広がる「9条をまもる」活動を交流します。学習講演会の講師は、「憲法の伝道師」として全国各地で講演を行う弁護士の伊藤真さんです。

2010年1月16日(土) 10:30~15:00

午前：学習講演会 伊藤真さん(弁護士、伊藤塾塾長)

午後：各地域・団体「9条をまもる」活動交流会

会場 盛岡市中心部を予定(詳しくは実行委員会で企画し、あらためてご案内します)



来月の署名行動

今月の「岩手の会」街頭宣伝行動は、9日(水) 12:30~13:00大通り・野村証券向いにて行います(なお、1月~3月の昼の署名活動は冬休みとします。)